

大学進学対策について

1 本県の取組

○11月～

- ・大学入試センター試験福井県プレテスト実施（15日、16日）3,006人受験
- ・センター試験対策を強化（授業での問題演習、模擬試験の実施）
- ・推薦入試・AO入試対策指導（小論文・面接）および受験
- ・難関大学志望者対象冬期セミナーの実施（12月20日、83名参加予定）

○1月中旬～2月下旬

- ・前期試験直前対策講座（各高校）
志望大学別に過去問題、頻出分野の類題等の演習、解説

○2月下旬～

- ・後期試験対策講座（各高校）
個別添削指導を中心に、過去問題等（小論文等）の演習、解説

参考 平成27年度大学入学者選抜の主な日程

- ・1月17日（土）、18日（日） 大学入試センター試験（県内5会場）
- ・1月26日（月）～2月4日（水） 個別学力検査（2次試験）出願
- ・2月25日（水）（～26日） 前期日程試験
- ・3月1日（日）～10日（火） 前期日程合格者発表
- ・3月12日（木）（～13日） 後期日程試験
- ・3月20日（金）～24日（火） 後期日程合格者発表

2 他県の取組

- ・熊本県立熊本高校
- ・愛知県立岡崎高校

教育委員会報告

熊本高校 富田秀明

熊本高校の進学指導の流れ

- ①校内模試（5・6・9・10・11月）
 - ・全教科とも熊高教員によるオリジナル問題
 - ・年5回実施、20段階評価（平均点100点満点中28点程度）
 - ・進路指導の最重要資料となる
 - ・業者模試をほとんど受けない
 - ・和訳のない原書から素材文を選ぶ（英語）
 - ・一つの大問につき、200時間以上要する
- ②入試問題研究会（5月）
 - ・東大、京大、九大、熊大の入試問題の傾向と対策
 - ・全教員自主的に全員参加（全員が担任できるように）
 - ・進路課長の存在感（全教科に精通、鋭い突っ込み）
- ③最初の進路検討会（7月）
 - ・5月、6月の2回分の校内模試で検討
 - ・平日4日間の放課後に実施（3h×4d）
 - ・これをもとに夏休みに入る前までに三者面談
 - ・進路課長による担任団への叱咤激励
- ④推薦入試対策（10月）
 - ・面接、小論の割り当てなし。生徒が個別で指導者を探す。クラスで1名程度。
- ⑤最終の進路検討会（12月）
 - ・11月までの5回分の校内模試で検討
 - ・定期テスト4日間の午後に実施（6h×4d）
 - ・これをもとに冬休みに入る前までに三者面談（事実上の出願先決定）
- ⑥センター対策（1月）
 - ・1か月前から気持ち程度
- ⑦センター後の面談（1月）
 - ・生徒対象、保護者対象ともに基本的には実施せず
 - ・東大18、京大21、医学科36、九大59。他はあまり話題にならない。
- ⑧予餞会
 - ・在校生、教員による2次に向けた激励会。半日文化センターを貸し切って行う。
- ⑨2次特講（2月）
 - ・福井県と大差なし（大学の難易度別に講座を設ける）



校内模試作成奮闘記①

本当に泣きそうでした。いや、実際涙が出ました。こんなに仕事上のことで苦しんだのは教員になってから2回目です。一度目は新採用教諭として敦賀高校に赴任した当日のことです。大学を出たばかりでまだ学生気分が抜けてなかった私としては、かなり厳しい現実と直面しました。実家が福井市にあり、まだ敦賀の住まいも決定していない状態での勤務日初日、『まあ、職員会議とかに参加して、18時には帰してもらえらるだろう』と甘い予測をしていました。教務部に配属され、時間割担当になっていましたが、当時の私はそれがどんな大変で重要な仕事かも分からずに、『あの、実家が遠いのでそろそろ帰らせてもらっていいですかね?』と19時ごろに時間割チーフに進言。時間割係が5, 6人残り一所懸命作業しているところにこのKYな発言。『この状況を見てよくそんなことが言えるな』と目も合わさずに切り返されました。結局、機械警備が始まる22時30まで作業を続けました。仕事内容も全く分からないのでただ黙々と言われた駒をはめ込んだり外したりしていました。帰りの高速道路での道中、甘い自分に情けなくなり涙を流したものでした。

そして今回が2回目。私は第2回目の校内模試の作成が割り与えられていました。

ここで校内模試について細かくお伝えします。校内模試は3年生対象の模擬試験であり、年に5回実施されます。福井県の進学校が受験する、ベネッセ主催の記述模試(県模試)、駿台の全国模試、河合の全統記述模試は全く受験しません。したがって、生徒の進路指導には校内模試の結果がメインの判断材料になるのは言うまでもありません。そしてその成績を偏差値ではなく、20段階で表します。18段階以上が東大に合格できるラインらしいです。そんな大切な模擬試験を作成するわけですから教員側も必死です。

さて、英語科の場合ですが、一つの校内模試を①リスニング②英作文③要約+α④和訳⑤総合問題、というように5つの大問に分け、そこに一人ずつ担当教員が割り当てられます。基本的に東大型の入試問題を作ることになります。英語科は14人いますので、一人につき年間約2回割り当てられることになります。『たった2回?』と思われそうですが、これがどんなに大変か!この2回のために英語科の先生方は洋書を買いきり読みまくり。普段の教材研究にかける力を3としたらこちらが7くらいの感覚です。一つの問題を作るのに100時間以上は平均してかかるそうです。実際私もかかりました。

校内模試作成が大変なことは赴任する前から知っていたので、早めに準備することを心がけました。私の割り当ては第2回目の⑤総合問題、第5回目の③要約+α、と4月の会議で知りました。『いきなり総合問題!?』知る人ぞ知る、東大の総合問題は非常に格調高く十分に計算された設問設定で毎年良問だと評されるシロモノ。何より素材を探すのが大変です。しかし、幸運なことに、自主勉強用として武生高校勤務時代に唯一買った洋書がありました。しかもそれは『When we are orphans: イシグロカズオ 著』というもので、東大にその著者の作品が何度も出題されたことがあり、その作品はまだ出題されていませんでした。これは神がくれたチャンス。この著者の作品なら間違いないだろう。そう信じ込み、4月10日あたりからこの作品を読み始めました。格調高く難解なところも多いので、武生高校勤務当時には数ページで挫折していたのですが、人間は強制的にやらされれば変わるもの。何とか読破し(もちろん理解できないところも多々ありましたが)、問題として使えそうなところを抜粋しました。ㄥ切がGW明けだったので作成期間は一か月くらいありました。平日は2時間、土日は各5時間ずつ使って読書と問題作成の日々が続きました。GWで帰福していた際も、その作成に大部分を費やしました。おそろくかけた時間はトータル50時間を超えているでしょう。そして、自分なりに割と満足できる内容のものが出来上がり、連休明けに無事に英語科主任に提出できました。ところが・・・。

欲しい情報等ございましたら遠慮なくご連絡ください。できる範囲で提供致します。

連絡先 tomihide1114@gmail.com



校内模試作成奮闘記②

ところが、私の血と汗の結晶である模擬試験の問題を手渡した瞬間、英語科主任（私より3歳年下、熊高10年目）のH先生は、

『先生、イングリカズオの著書で対訳本の出ていないものはないですよ。そんな有名な作家の作品に対訳本が出版されないことはまずないですよ。いまだかつて熊高英語科では、対訳本がある原作は校内模試で使ったことがないです。ですから先生の作成されたこれは残念ながらボツになります。』

訳本の存在など全く頭になかった。大ショックを受けているとき、さらに追い打ちをかけるように、

『先生、週明けの月曜日に検討会を行いますので、他の原作からまた問題を作ってきてください。まあ、せっかくこの問題も作ってくれたので、これも検討会には一応かけましょう。でも、ボツはボツですけど。』

ちょっと待て。今日は5月9日（金）。週明けって、今日を含め3日しかない。今からどうやって訳がついてない原作を探し、それを読み込んで問題を作る時間があるっていうのだ。あれだけ時間をかけて作ったものがボツだなんて……。本当に窮地に立たされました。本当にもうだめかもしれない。白旗を上げよう。いや、上げたところで許してはもらえない。しかも福井県の先生方に会わせる顔がない。情けない。その時、S先生（英語科：2年担任、熊高2年目、47歳）から助言を頂きました。

『先生、そんなくらいで落ち込んでダメですよ。私は去年、先生と全く同じ立場だったのです。熊高1年目で2回目の校内模試で総合問題担当でした。私は11回も素材文を変えて提出しました。しかし、すべてボツになってしまいました。結局、別の先生がかつて作られたものが採用されました。とても悔しかったです。自分はなんて無能なのかって思いました。周りから白い目で見られているようで、自分は熊高に必要な人間だって言われている気がして生きた心地がしなかったです。でも、先生。問題が結局できなくても、誰かが作ってくれます。そんなに自分を追い込むことないですよ。5回以内に合格することがあればそれは大変な快挙ですよ。まともに問題を作れるようになるには本校勤務を最低3年はしないとだめだと言われています。本校1年目の教員ができなくて当たり前です。何も気にすることないですよ。私も開き直れましたから。』

決してS先生は無能な人ではないのです。前任校は地域でナンバーワンの進学校（武生高校レベル）で、学年主任まで務めたお方。生徒の信頼も厚く授業評価も高い先生です。そんな先生までもが校内模試には勝てなかった。さらにH先生からのお言葉。

『熊高1年目の教師が作った問題が採用されることはあまりないです。熊高10年以上いらっしゃるベテランの先生方でも、平均3・4回は検討会にかけてやっと採用されています。10回以上提出することなんてザラにあることですよ。みんなドキドキしながら検討会に出席しています。ですから、先生、1回目で採用されるなんて考え自体が甘いんです。第二、第三の候補を考えておくのは常識です。』

まさに窮地。どうする。とりあえず1時間落ち込みました。次は授業。なんとか気を奮い立たせて教壇に立つと、生徒たちがトミタンノートを見ながら一生懸命復習し、相変わらず目をキラキラさせながら私の攻撃を待ち構えている。この子たちに負けてられない、逃げてたまるか。そう決意し、2回目の問題を作るために素材探しを始めました。H先生に英語科の本棚を紹介してもらい、歴代の英語科の先生方が購入された原書の山から問題になりそうなものを探し始めました。なにしろそんなに原書を読む力がないもので大変です。どれがいいのかさっぱりわかりません。しかもいいものを見つけたと思っても、それを検索すると対訳本の出ているものばかり。幸い、その日は午後から授業がなかったので、時間はかけられました。ついに、それらしいものを見つけました。『The Best American Essays』というもので、割と短編のエッセイが何本も載っています。対訳本も出ていないことも確認しました。この中に問題になるものがあるかもしれない。無我夢中で読み始めました。そして……

欲しい情報等ございましたら遠慮なくご連絡ください。できる範囲で提供致します。

連絡先 tomihide1114@gmail.com



校内模試作成奮闘記③

そして、ついに面白いオチがある程よい長さの物語を見つけました。これなら上手に編集すればいい問題が作れるかもしれない。幸い今日はとなりの席にジョン（本校 ALT、ただし3校かけ持ちなので常駐ではないが）がいる。学校にいる間、分からないところを聞いてしまおう。彼は19時まで私に付き合ってくれました。ほとんどの職員が帰宅する中、私は珍しく居残り、原文をタイプしていました。土日は設問作成に費やし、何とかそれなりの形で出来上がりました。

決戦の月曜日。問題検討会は3年生担当の5名の先生と問題作成者で行われます。作成者は下座に座り、正面にはその5名が鎮座し、質疑応答が行われます。まるで裁判所の被告人のようです。まずは私が最初に出した問題から。親切だったのはどうせボツになると分かっているにもかかわらず30分くらいアドバイスを頂けたこと。その中の一人の先生は大変その素材を気に入って、休日の貴重な時間を割いて設問を作り変えてきてくれました。『こうすれば20点分うまくつくれますよ。訳本さえなければ採用の可能性があったのに。惜しかったですね。』と慰めてくれました。

そして2つ目の作品をその場で提示。内容を把握するだけで私ならば10分はゆうにかかるだろうものを彼らは5分程度で読破。『この素材ならなんとかいけるのではないですか。』『まあ、設問を吟味していきましょう。』という感じで検討会終了。何とか首の皮一枚つながったようです。とりあえず素材文の OK は出たようなので、ホッとしました。10回の新素材の提出はザラだということだったので、今後は素材探しで苦しむことはなくなりました。本当に嬉しかったです。2回目の素材の提出で認められたのは奇跡に近いことです。ただし、偶然いい素材を見つけられたのは運がよかっただけ。さらなる偶然ですが、当日、福井県から教育長、高校教育課長、高志高副校長が熊本高校を訪問されておられました。その日のうちに直接良い報告ができてほっとしました。

ただし、それで完了ではありませんでした。やはり、設問設定が甘いということで、設問づくりのやり直しを命ぜられました。そして、それから一週間かけて再提出し、これで文句はないだろうと自信満々だったものが半分以上直され、ようやく完成に至りました。さらにこれから全訳・解答解説を作るとなるとやはりトータルで100時間は超えそうです。でも、ものすごい達成感と充実感があります。何よりも、熊高の先生方にちょっとでも認めてもらえたというのは自信になります。第5回目の模試では、③要約+αが割り与えられています。作成難度が最も高いといわれているので、今から恐怖を覚えています。提出は9月ですが、もう今から素材探しをしないと間に合わないような圧迫感があります。今度は少なくとも素材文10種類は用意しないと精神的に安定しないでしょう。もちろん一発合格を目指しますが、このような精神状態に追い込まれるので熊高の校内模試作成は本当に苦しいのです。年中校内模試のことを考えているっておっしゃっていた先生方の言葉の意味が身をもって理解できました。

余談ですが、本校の職員名簿は年齢順の序列ではなく、在籍年数の多さで決まります。例えば英語科主任の H 先生は36歳ですが、10年目なので科内では上から2番目に載っています。本校2年目の S 先生は47歳ですが下から3番目です。校内模試の作成回数で本校への貢献度を示しているような気がします。関係ありませんが、女性の先生方の年齢までその名簿には公開されています。衝撃を受けました。ともかく、年齢よりも在籍年数が評価される学校なのです。したがって、若い学年主任に年配の担任という構図が見受けられます。

英語科も大変ですが、国語科はもっと大変です。古典などは入試で使われていない素材が大変少ないらしいです。東京まで出張し素材探しされるそうです。数学科はシビアです。本校2年目の若手教員は問題作成の割り当てすらありません。ただ、頑張り屋の彼は毎回自主的に問題を作成し、コンペにはかけてもらっています。いまだかつて採用されたことはないらしいですが。

3回分にわたる奮闘記で少しは校内模試の厳しさは伝わりましたでしょうか？

欲しい情報等ございましたら遠慮なくご連絡ください。できる範囲で提供致します。

連絡先 tomihide1114@gmail.com



入試問題研究会

これまた一味違います。「各教科で入試問題の分析をしてその内容を共有する」、というようなことはどここの進学校でも行っていると思います。ここまでは同じなのですが、なんと全教員が一堂に会し、全教科の分析を聴くことになります。全員強制です。体育科の先生方も部活指導よりも優先させて参加します。強制というよりも、自主的という言葉が適しているかもしれません。なにしろこの研究会は AT（中間テストみたいなもの）の午後に実施され、2時間以上続きます。会議嫌いな熊高の先生方が、真剣に参加しています。

さらに驚いたのが、進路課長の小坂先生の存在感。彼がこの会議に緊張感を醸し出します。小坂先生が上座に鎮座し、それ以外の教員は管理職も含め向かい合う形で座っています。簡単に言うならば、小坂先生が先生役として教卓にいて、残りの教員が生徒役として座席についているような感じです。各教科の分析の直後に、小坂先生が鋭い突っ込みを入れてきます。例えば、英語の場合、『東大の大問5の間7ですが、駿台は A 河合は B と主張しています。なぜこのように意見が分かれるのですか？先生はどちらの立場ですか？』と急に振られます。突然のキラーパスに英語科の担当者はしどろもどろに。緊張が会議室に走ります。英語科内でヒソヒソ話して意見をまとめ何とかその場を切り抜けます。同じような鋭い質問が各教科の発表後に必ずあります。全教科に精通している進路課長、すごく脅威でもあり大変頼もしくもありました。彼が熊高の進路を背負っていると評されているのは当然でしょう。ちなみに彼は数学が専門なので、同教科の分析に対しては若干寛容であった気がしましたが。

分析の中身は各教科とも主に「東大・京大・九大・熊大」でした。全員参加の意義は全員が担任できるように、ということらしいです。熊高の先生方が何に重きを置いているのかがはっきり分かりました。このような会議には何時間かけても惜しくないのでしょうか。ただ入試問題を解いて冊子にして終了、というだけでは少し物足りないかもしれませんね。実際、熊高ではその域を脱し、情報を確実に全員で共有し、さらに東大型の模擬試験（いわゆる校内模試）を作成しているのですから。実は私も第2回目の校内模試の作問が割り当てられています。今、ものすごく苦しんでいます。ここまでハイレベルで縛りがきつい作問は人生初です。大変追い込まれています。この悪戦苦闘ぶりは次号以降でお伝えします。

テープ仕分けくん



これは印刷機の印刷物が排出されている部分を写したのですが、青いテープみたいなものがニューと出ているのがお分かりでしょうか？なんと、自動で仕分けをしてくれる『テープ仕分けくん』です。例えば40人10クラスの印刷物を自動で40毎にカウントし、その度に仕分けテープが出てくるのです。これは便利です！印刷中その場を離れて別の仕事ができます。あまりに私が驚いていたので、周囲の先生は憐みの目を向けてきました。熊本県ではこれがスタンダードらしいです。福井県もこのようなものが導入されると作業効率が上がって助かるのではないのでしょうか。

欲しい情報等ございましたら遠慮なくご連絡ください。できる範囲で提供致します。

連絡先 tomihide1114@gmail.com



第1回進路検討会①

Kumataka Times の第1回にて、『熊高は徹底して無駄を省き、職員会議は年に3回しかなく、校務分掌の会議も教科会も時間割に組み入れられていない。』というように報告させていただきました。しかし、逆に、意味があるものには徹底して時間をかけるということが分かりました。

熊高では、7月7日(月)～10日(木)の4日間を第1回目として、12月2日(火)～5日(金)の4日間を第2回目として、各日の放課後に3年生の進路検討会を実施します。対象生徒はなんと3年生全員になります。初日は東大・京大をはじめとする超難関大を志望する生徒について。二日目は医学科志望の生徒について。三日目は九州大・神戸大。四日目はその他の国公立・私大。以上のように分類して検討します。

初日、その検討会は16時から始まり終わったのが19時半。二日目は15時半から20時までかかりました。勤務時間がすでに終わっているにもかかわらず、文句を言う先生方は誰もいません。それどころか、生徒一人ひとりについてみなさん熱く語られます。参加者は3年担任+進路課員が原則ですが、管理職の先生はじめ多くの教員が参加していました。もちろん、中座される先生も多少おられましたが、基本みなさん真剣そのものでした。



【左の写真は資料の一部です。左上にある通し番号に従って会議が進められます。3年全員を検討するので通し番号は400以上あることになります。この資料も相当分厚いです。“段階”という基準を用いて合格可能性を判断しています。東大理一ならば16段階は必要なので、この通し番号53・54の生徒たちは現時点で届かないということになります。九州大の薬学部であれば13段階で十分合格できることになります。ちなみに、この資料は桐で

処理されています。印刷が大変そうですが、実は進路課には心強い味方がいます。育成会が事務専門に仕事をしてくださる人材を雇ってくれているのです。そのお方が印刷から製本まですべてやってくれるのです。本当に感謝感激です。】

生徒全員の検討をこの時期に時間をかけてやることは、福井県にいるときは全く考えられなかったです。せいぜい、全員分の検討をするのはセンター試験後ぐらいでしょう。熊高では、夏休み前に生徒の自宅学習の方向性を決めるための大切なものとして、この検討会は位置付けられています。志望校をこの段階ですでに決定していて、それがセンターの結果にさほど左右されず志望校への揺るぎのない思いが強い生徒が多い熊高だからこそ、この時期に時間をかける意味があるのです。

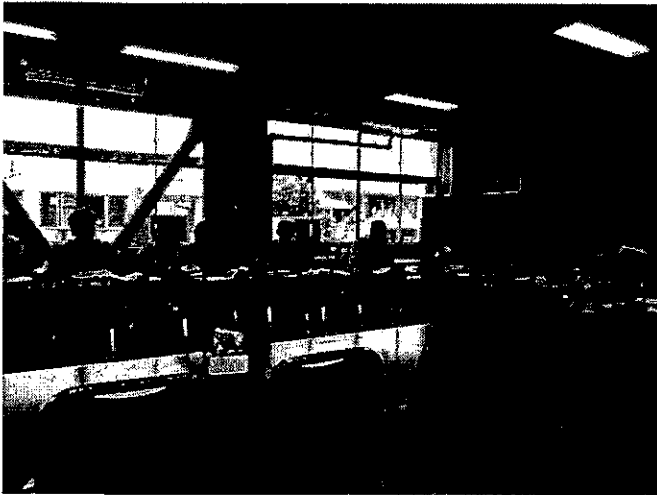
次回にこの会議の詳細をお知らせします。

欲しい情報等ございましたら遠慮なくご連絡ください。できる範囲で提供致します。

連絡先 tomihide1114@gmail.com



第1回進路検討会②



司会は進路課長の小坂先生が務められ、いや、司会だけではなく、アドバイザーも務められていました。いわば、小坂先生VS3年担任団といった図式です。いくつか事例を紹介します。今年度は東大理Ⅲを目指している生徒が2名いるのですが、うち一人は20段階中20段階という驚異的な成績を持つ生徒なので、合格はほぼ確実と言われています。ただもう一人は18段階でギリギリのラインにいます。したがって本人は非常に弱気になっているので、おそらく前期は九州大の医学科に出願するのではないだろうか、と担任が説明しました。すると小坂先生は、

『後期の出願を熊医にしておきなさい。この生徒ならば確実に留まります。熊高は理Ⅲのデータが欲しいのです。過去に合格した者は全員20段階でしかも理Ⅲの中でも上位で合格していきました。こんなデータは全く参考にならない。もう一人の生徒もこの類です。したがってこの生徒には是非受けさせてほしい。理Ⅲの最低ラインはそれほど高くない。ギリギリで合格しそうな生徒のデータこそ貴重なのです。志望が傾かないようにお願いします。』と担任に要望。いや、迫力があるので強要かも。

さらに、医学科の志望に関しても一言。

『今年度はなぜか神戸大、広島大、横国などに医学科の志望がバラけています。合計81名の医学科志望がいても、これだけバラバラのところを受験しては合格可能性が下がります。そのような大学のデータが熊高にはあまりないのです。しかし、九医と熊医には確固たる資料があります。指導が大変しやすく合格可能性もかなり上がります。このままの志望でいっても医学科の数は出ません。担任の先生方、どうかご一考ください。』とさらに要望。担任の先生方はプレッシャーをかけられます。

今度は担任への個人攻撃。

『この生徒は第一志望が医学科なのに、なぜ第二が工学部なのですか。そんな筋の通らない志望を許していると絶対受験は失敗します。指導をやり直してください。』該当担任は下を向いて申し訳なさそうな表情をされていました。しかし、そんな厳しい中にもユーモアをちょくちょく入れて進行していくので雰囲気は概ね和やかです。他には、

『この生徒は数Ⅲを学習する素地がない。数Ⅲを深追いさせることなく、他の得意科目を夏に勉強した方が得策である。』など、ズバズバ指摘されます。

また、小坂先生は直近のAT(定期テスト)の結果、学力分析テスト(入学当初に実施している定点観測テスト)の結果をかなり重要視しています。前者は現時点での学習に対する姿勢を測るもの、後者は地頭(ちあたま)の力を表すものとして参考にされているようです。

こうして3年担任の先生方はこの検討会で生徒一人ひとりの方向性を確認することができ、夏季休業中の三者面談に反映させることができます。生徒たちも受験の天王山である夏休みを迷うことなく勉強を進めることができます。

小坂先生の知識量はもちろんすばらしく助言も的確なのですが、何よりも体力があります。4日連続の放課後平均3時間の会議をほとんどお一人で話し続けられる進路課長は全国を探しても彼以外ないかもしれません。彼が退職された後の熊高が多少心配ではありますが。

欲しい情報等ございましたら遠慮なくご連絡ください。できる範囲で提供致します。

連絡先 tomihide1114@gmail.com

2. 主な学校行事について

月	1 年 生	2 年 生	3 年 生
4 月	新入生テスト	実力養成考查	実力テスト
			新旧担任連絡会
5 月	中 間 考 査		
	新入生オリエンテーション合宿	修学旅行（2泊3日）	遠足
6 月	実力養成考查		実力テスト
7 月	期 末 考 査		
	芸術鑑賞会		
8 月	夏季課外		
9 月	実力養成考查		実力テスト
	学校祭（文化祭、体育祭）		
10 月	中間考查		
11 月	実力養成考查		実力テスト
11 月	弁護士と語る会		
12 月	期末考查		
			進路検討会
1 月	実力養成考查		
2 月	予選会		
	学年末考查		
3 月			卒業式

3. 課外について

夏季課外 … 全学年実施。7月下旬～8月上旬まで。1コマ75分。
1, 2年生は国・数・英の3教科、3年生は5教科で実施

土曜課外 … 3年生は1学期から10/18まで実施（8日間）。
1, 2年生は2学期中間後から実施。
1コマ75分で実施。

平常課外 … 3年生のみ実施。6限で終わる月・金曜日に実施。（毎週ではない）
期間は1学期から11月初旬まで（27回）
課外は5教科で行われるが、理科と社会を重点的に実施。

※ 冬季課外は実施しない

4. 実力テスト、実力養成考査について

実力テスト … 3年生のみ実施。(事前の課題およびテスト範囲なし)
全部で4回実施。
9、11月の偏差値が進路検討会の資料となる。

実力養成考査 … 1、2年生で実施。(事前の課題およびテスト範囲あり)
1年生は4回(6、9、11、1月)
2年生は5回(4、6、9、11、1月)

- ① 平均点は40%～45%を目標。
- ② 進路で集計を行うのは3年生の9月、11月のみ。
それ以外は各学年で集計を行い、進路でのデータの集約は行っていない。
(それぞれの集計はベネッセの校内成績管理システムを使用)
- ③ 作問は各学年担当で決定。他学年の問題については後日配布。
- ④ 実際の出願においては、予備校の模試よりも実力テストの偏差値を重視

【使用データ】

第3回・第4回 実力テスト偏差値(平均)
進研記述模試偏差値
全統記述模試偏差値
進研マーク模試
全統記述マーク模試

【実力テスト偏差値のラインについて】

最近の入試の結果を利用して進路部長と学年主任で決定。
数年前までは実力テストの偏差値50が名古屋大学のボーダーライン
であったが、ここ最近は52・53あたりを設定。
アラカルト方式については、5教科偏差値で考えるため
設定を易しくしている。

試験の作問・採点のサイクルについて（2年生数学の具体的な日程から）

月	火	水	木	金	土	日
9/1 実力テスト	2	3	4 職	5	6	7
8 文化祭	9	10	11	12	13	14
15	16	17 体育祭	18	19	20	21
22	23	24	25 職	26 OP	27	28
29	30 問題 締切	10/1	2	3	4	5
6	7	8	9 職	10 中間	11	12
13 中間	14	15	16	17	18 課外	19
20	21	22	23 職	24	25	26
27	28	29	30	31	11/1 課外	2
3	4	5 実力テスト	6	7	8	9
10	11	12	13 職	14 OP	15 課外	16
17	18	19	20 職	21	22 質問会	23
24	25	26	27 問題 締切	28 期末	29	30

※ 採点が終わる前には次の実力テストの課題作成および作問が始まる。

5. 3年生の取り組み

	生徒	教員
4月		【新旧担任連絡会】 昨年の3年担任との情報交換。 文理に分かれてそれぞれ入試の結果 について議論を交わす。
6月	【大学入試研究会】6/14（土）13:30～15:00 4つのコースに分かれて入試情報や1年間の学習の方法、合格体験記などの 紹介を教員が行う。コースは以下の通り。 ① 東京大学・京都大学（文型） ② 名古屋大学・一橋大学・他（文型） ③ 東京大学・京都大学（理型） ④ 名古屋大学・他（理型）	
7月 8月	【特別講座】 夏季課外の午後を利用して実施。 このときのみ大学別の講座を実施。	【ミニ検討会】 文理別に分かれて、担任間で情報交 換等を行う。
11月		【進路検討会資料作成】 12月の進路検討会に向けての資料 を作成。（資料の作成は新任教員および 3年生の担任で行う。）
12月		【進路検討会】 12/1～12/3の3日間かけて実施。
1月	【センター前特別時間割】 ----- 【センター後特別時間割】（～2月）	【2次検討会】

その他 … 平常課外、土曜課外、夏季課外、自主学習会

模試・実力テスト… 4月 第1回実力テスト

5月 学研記述模試

6月 第2回実力テスト

第2回進研模試《マーク》（ベネッセ）

7月 第3回進研模試《記述》（ベネッセ）

8月 第2回全統マーク模試（河合塾）

第2回全統記述模試（河合塾）

9月 第3回実力テスト

第3回全統記述模試（河合塾）

10月 第3回全統記述模試（河合塾）

11月 第4回実力テスト

各種大学別模試（駿台・河合塾・代ゼミ）

※ センター演習は12月から。推薦入試への出願はほとんどなし。